

雜錄 Miscellaneous

續・滿蒙ノまちいび（其三）

高橋 基生

M. TAKAHASI: Further stories of my journeys through Manchoukuo (III)

諸テ次ニ闊達罕、達拉罕等此ノ地方一帯ノ產金地帶ヲ地質學的ニ一瞥シテ見ルト、基岩ハ主トシテ花崗岩、結晶片岩、及ビ片磨岩ヨリ成リ。其ノ上部ガ風化シテ含金層ノ形成源トナツテキル。ソレ故到ル處掘リサヘスレバ多カレ、少カレノ砂金ハ出ル筈デハアルガ、水流ニ洗ハレテ謂所罕ヲ成ス地帶ニ多ク水撰集積スル譯デアル。猶土壤ニ就イテ見ルト、基岩及ビ氣候ノ關係上、又更ニ是等ト相關連シテ腐植質ノ集積モ相當顯著ナルタメ、一般ニ酸性乃至弱酸性ノ反應ヲ呈シテ居ル。

諸テ達拉罕ヲ北ニ距ルコト凡ソ 15 載ノ地點ニ一方ニ白樺ノ森ヲ背負ヒ、前ニ細流ヲ控ヘタ絶好ノキャンプ地ガアル。命令一下瞬ク暇ニ 30 人ハ優ニ寢ラレル屋根型ノ大型テントガ張ラレ、中ニ据エタ組立式ノストーヴガ赤ベト燃エ始メタ。オ蔭デ途中存分ニ時雨ヲ吸收シテ來タ衣服ナドモ忽チニシテ乾イタ。又其ノ頃ニハ某々氏ガ丹精ヲ込メタ手製ノライスカーノ臭が深刻ニ鼻ヲ衝ク。スルト誰カラトナクツノ鍋ヲ中心ニ圓陣ガ形成サレ。物ヲモ云ヘズ、只々旺盛ナル食慾ガ壓倒的ナ雰圍氣ヲ釀シ出ス。愈々今夜カラハ戰時體制ヲ布カネバナラナイ。各

自夫々ノ手箸ガ極ツタ。之ハ萬一ニ備ヘルタメデ、聞ケバ約二ヶ月ホド前ニ此處カラ十數軒南方ノ測量隊ガ寢込ミヲ襲ハレテ犠牲者マデ出シタ騒ギガアツタ。其ノ上ニ、9月始メトハ云ヘ、既ニ數回ノ降霜ヲ經元居リ、夜半ハ氣温モ急ニ低下スル。昨夜ナドハ零下 2 度半ニサヘ下ツタ。又話ニヨルト本年ノ初霜ハ既ニ 8 月 26 日ニ降リタサウデアルガ、ソレデモ昨年ニ比シテ 10 日遅レテキルト云フ。コレデ豈イ方トハ驚ク他ハナイ。一體此ノ地方ハ無霜日數、年 100-110 日デアツテ大連附近ノ



第 17 圖 滿洲國旗ヲ押立テ、進ム。（黑河憲兵隊榆樹溝）

約半分シカナイ。コンナ具合デストーヴノ火ハ一晩中絶ヤス譯ニハユカヌ。ソコデオロチヨン 5 名ニ命ジテ 10 時半カラ翌朝ノ 4 時半マデ 1 時間半交代デ歩哨トストーヴ番トヲ務メサセルコトニシタ。處ガ困ツタコトニハ オロチヨンハ時計ガ讀メナイ。ソコデ時計ノ硝子面ニ萬年筆デ印ヲ附シテ、夫々針ガコヽマデ來タラ交代スルヤウニト申シ渡シタ。斯ク



第 18 圖 白樺ノ森ヲ奥ヘ (黒河憲兵隊檢閲演)

テ朔北ノ曠野ハ霜ニ明ケタ。寢不足ノ目ヲコスリ乍ラテントノ外ニ出テ見ルト、昨夜先番ヲ務メタ管ノカーチンガ相變ラズ銃ヲ持ツテ立ツテキル。不思議ニ思ツテ質シテ見ルト、未ダ時計ノ針ガ印マデ來ナイト云ツテサシ出シタ。成程之ハ思ハヌ失敗ヲシタ。丁度 11 時半デ止ツテキル。實際コノオロチヨンヲ朴

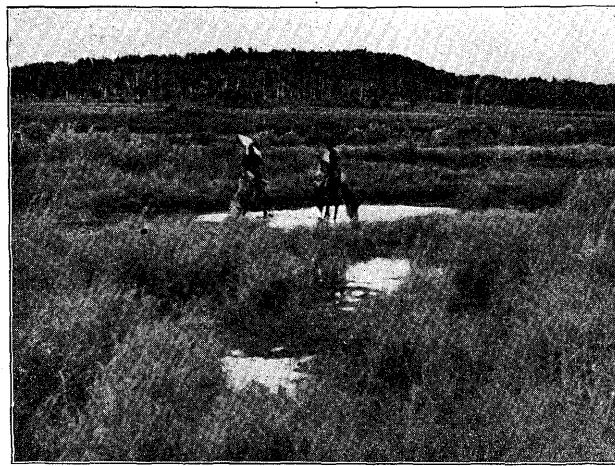
訥ト云ハウカ、忠實ト評サウカ、譯モ無ク涙ガ零レテ來ル。金山鎮ヲ出ル時既ニオロチヨン 1 名ハヨク 10 名ノ匪賊ニ對抗シ得ルト聞イタガ成程ト首肯ケタ。先年熱河省北部ヲ調査シタ際、湖水ノ對岸ヲ通過スル馬賊ノ 1 隊ヲ認メテ蒙古人ノ護衛兵ガ先ヲ争ツテ逃げ支度ヲシタノトハ雲泥ノ差デアル。之ハ又別ノ話ダガ、オロチヨンハ一面非常ニ數ノ觀念ニ乏シイ。連レテ來タ、18 頭ノ馬ヲ每朝點檢スルガ、常ニ一度デ済ンダ例ガナ。オロチヨン語デウモン、ユル、エラン、デイン、トンガト算ヘ乍ラ途中デ怪シクナリ、數回繰返シテ漸ク納得スル。何故毎朝馬ヲ調ベルカト云ヘバ、カウ云フ譯ガアル。オロチヨンノ馬ハ別段馬糧ヲ携行スル必要ガナ。ツマリ、一旦目的地ニ着クト、直チニ馬ノ前脚ヲ 2 本揃ヘテ縛ツテシマウ、ゾシテ一晩中放馬シテ置ク。馬ハ仕方ナシニ兎躍ヲシ乍ラ、翌朝マデ好キナ處デ勝手ニ草ヲ食ツタリ、寢タリスル。併シ前脚ノ自由ガキカヌノデ餘り遠クヘハ行ケヌ譯デアル。ソレ故翌朝ハ難ナク之ヲ連レ戻スコトガ出來ル。併シ萬ガ一ニモ紛失シテハト丹念ニ點檢スル。

堵テ、今朝ハ霜ガ激シカツタ代リニ、日中ハ至極上天氣デアル。まんじうしうかんばノ森ヲ抜ケ、だぶりあからまつノ林ヲ潜ツテ濕地マタ濕地ヲ進ムノデアル。時ニハ馬ノ 4 脚ガ全ク泥土ニ没シテ、腹が地ニ着クコトサヘアル。コンナ時ニハ何ハ兎モアレ、遼早ク飛ビ下リテヤル必要ガアル。ソレ故オロチヨン地帶ニ這入ルニハ少々不細工デモゴムノ長靴ガ一番便利デアル。此處デ時節柄一寸耳寄リノ話ヲシタイ。ソレハ外デモナイ。上海邊デハ謂所クリークガ皇軍ノ進撃ヲ拒ンダコトハ一通リデハナカツタコトハ既ニ御存知ノ如クデ

アル。然ラバ若シモ東部シベリアノ濕地地帶ニ集團的人員ノ移動ヲ必要トスルヤウナ事態が發生シタトシタナラバ、ソレコソ泥沼ニ脚ヲ突キ込ンデ抜キ差シナラヌハメニ陥リハスマイカ。ソノ虞ハ大イニアル。ソレニハ豫メ如何ナル注意が必要デアラウカ。先ダ飛行機ヲ飛バシテレベリリあ

かまつノ生育地帶ヲ空中カラ偵察シ、此處へ集團ヲ誘導スルノデアル。何故ナレバ此ノ植物ハ砂土或ハ壤質砂土ノ水ハケノ良イ土壤カ、或ハ排水ノ良イ岩石地ニシカ成育シナイカラデアル。次ニ愈々ソレデモ濕地ニ遭遇シタ場合ニハ如何ニスルカト云ヘバ、ながぼのしろわれもこう、トイはのがりやすガ絶對的優占種デアツテ灌木ヲ交ヘヌ地域ニハ間違ツテモ馬ヲ追ヒ込マヌヤウニ暮々モ心掛ケテ置クコトデアル。之ニ比シテ *Trollius* ノ生育スル地域ハ大雨後2,3週間後ナレバ通過可能デアル。雨中モ絶對心配ヲ要セヌノハ *Hemesocallis* ャもうこおみなへシヲ生ズル地域デアル。コノ他満人ガ烏拉草ト稱スルモノトあやめノ一種及びロハさぎすげヲ生ズル濕地ガアル。是等ハ時ニ野地坊頭ヲ形成

スルタメニ、馬ガ之ニ躡ク危險ガアル。コノ内烏拉草トイフノハ大變有用ナ植物デ、細長イ葉ヲ乾燥シテ靴ノ底ニ入レテ置クト夏ニ涼シク、冬ハ暖カデアル。ソレ故オロチヨンモ満人モ之ヲ愛用シテキル。或ル時オロチヨンガ腹痛ヲ病シテ居ルノデ藥ヲ與ヘヨウトシタラ、ヨウ不要、不要ト手ヲ左右ニ振リ乍ラ、ヤガテコノ草ノ乾シタモノヲ懷爐代リニ腹ニ巻キ込ン



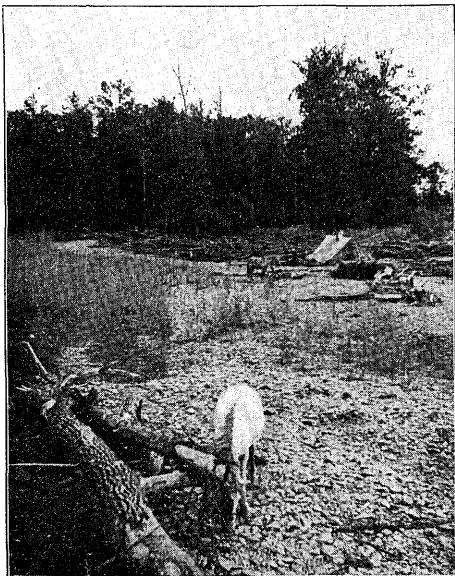
第19圖 行軍ヲ阻ム濕地、後方ノ樹林ハまんじうしかんば（黒河憲兵隊檢閲済）



第20圖 野地坊主形成ノ状況（黒河憲兵隊檢閲済）

デ居ツタ。ソコデ之ヲ大々的ニ藁蒲團ニ仕上ゲヨウトイフ名案モ提唱サレテキル。

コンナ工合ニ濕地ニ阻マレテ、コノ日ノ行程ハヤウヤク30糠餘シカ持ラナイ。ウシテ4
時過呼瑪爾河中流ノ河原ニ出テ、コヽ^{ホマルホ}クヤンピ地ニ選ブコトニシタ。トイフノハコ、
渡ラスト上流ハ一層困難ヲ伴フトノコトデアル。併シ流レニハ橋ハ勿論ノコト舟サヘモア
リサウモナイ。ソレ故水深4米、幅65米ノ水流ハ到底日沒前ニハ渡レル筈ガナイ。ソコデ早
速一方デハ露營ノ支度ヲスルト共ニ如何ニシテ渡河ヲ決行スペキカヲ協議シタ。サウシテ
キル内ニ頭上一面ニ高ラカニ鳴キ聲ガスル。仰ゲバ百羽下ラヌ鶴ガ輪形陣ヲトリ乍ラ北



第21圖 呼瑪爾河中流河原ニ於クルキヤンピング
(黒河憲兵隊檢閱演)

ヲ指シテ飛シデ行ケ。見ルカラニ長イ脚
ヲ後方ニ伸バシテ悠々ト飛翔スル様ハ百
鳥ニ冠タル雄姿デアル。瑞兆ヲ壽グ内ニ
衆議一決、最後ノ手段筏ヲ組ンデ渡ルコ
トニ肚ヲ極メタ。處ガコノ作業半バニアル時、何ヲ思ツタノカ隊長モンピライハ
矢庭ニ鞍ヲ外シテ唯一騎、ヤオラ水中ニ
乗リ入レタ。一ト躍然トシテ固唾ヲ呑ム
内ニ更ニ水嵩ノ本流ヘト進シ。吾々ガ
曾ツテ習ツタ水馬泳法トハ違ツテ、オロ
チヨンノハ乘ツタマヽデ泳ガセルノデアル。
コレデハ乗手ハ樂ダラウガ、馬ノ方
デハ二人分泳ガネバナラナイ。流石頑
健ヲ誇ルオロチヨン馬モ喘ギニ喘イデ
時ハハラハラトサセラレタ。ソレデモ遙
ニ下ノ方デ漸ク對岸ニタドリ着イタ。隊
長ハ更ニ何カ探シ求メテキルラシイ。ソ
コデ吾々モ筏流シ渡河準備ヲ一時中止
シテ之ヲ見守ル事ニシタ。廳テ支流ノ奥ノ方カラ筏ト五十歩百歩ノ前後ノ區別モナイ板ヲ
打チツケタ箱ノヤウナモノヲ見附ケテ來タ。何デモ前ニ此ノ邊へ來タ測量隊ノ手製デアル
ラシイ。ソコデ之ニ修理ヲ加ヘ筏ニ代ヘル事ニシタ。明日ノ準備ハ之デ出來タ。今夜ハ焚
火ノ大盤振舞ガ、流木ノ多イ河原ヲコレ幸ヒド、二ヶ所ニ堆ク積ミ上ゲテ火ヲ點ジタ。燃エ
ル燃エル炎々トシテ燃エル。文明ノ燈火カラ遠ク離レタ無人ノ曠野ニ今開拓ノ烽火ガ舉ガ
ツテキル。闇ヨ破レヨ、妖魔ヨヒレ伏セヨ。コノ火ヲ圍ンデ若キ先驅者達ハ目指ス黒龍溝
入りノ密計ヲ練ツタ。黒龍溝トハ呼瑪爾河上流一滯ヲ指スノデアツテ、満人ハ一名幽靈谷
ト稱シテ怖レテキル。ソレハ20數年ノ昔、民國何年カノ頃、支那側ノ調査隊30餘名が此
ノ奥地ニ這入ツタガ、コトゴトク行先不明トナリ唯1名僅カニ金山鎮ニ辿リ着イタサウデ
アル。以來此ノ地方ノ満人達ハ黒龍溝八名ヲ聞イタダケデモ身標ヒスル。彼等ニ言ハセル
ト妖怪ノ棲息處デアルサウデアル。何デモテントノ中デ寐テ居ルト知ラヌ内ニ外ヘ曳キ出

サレテキルトカ。或ハ曾
ツテ惡事ヲ働く人間ハ
腸ヲ抉リ取ラレテ高イ木
ノ梢ニ晒シ物ニナルト
カ、又ハ毒草が一面ニ繁
ツテ居ツテ之ニ觸レルト
死ヌトカ。或ハ黒龍溝ニ
ハ底マデ澄ンダ溜リ水ガ
アルガ、其處ハ妖怪ノ水
浴スル處デ其ノ水ヲ飲ン
ダガ最後、狂ヒ死ヲスル
トカ。コンナ話ヲ無智ナ
苦力達ハ1カラ10マデ

信ジテキルカラタマラナ

イ。ソレ故彼等ニハ行先ヲ明サナイデ連レテ來タノデアル。

前後2日がリノ呼瑪爾河中流ノ渡河作業モ無事ニ済ンデ路ハ愈々狭ク、時ニハ消エ去ルコトサヘアル。最早コノ邊ハオロチヨン以外ニ通ルモノトモナイ。馬上ソツト延ビ上ツテ見ルト鴨ガ5,6羽下リテキル。今年18歳ニナルオロチヨンノ少年ピンボーガ邊岸マデ忍ビ寄ツカト思フト追ヒ擊チノ1發デ見事ニ仕止メテ來タ。見レバ首ノ附ケ根ヲヤラレテ、今ニモ挽ギ取レサウデアル。紛レ中リカト思ヘバ、コヽガ鴨ノ狙ヒドコロダサウデアル。何シロ彼等ノ所持スル銃ハ銃口ニ人差指ガ這入ル位モアル戰闘用ノモノデ、眞面ニ胸中ナドヲ打タレタノデハ肉ガ四散シテ、ソレコソ何モカモ無クシテシマウ。カウナルト、鴨打モ鹿ヲ仕止メル以上ニ修練ヲ要スル。一體何處製ノ銃カト手ニ執ツテ見ルト、1891年エルブルトト膨ツテアル。猶彼等ノ使用スル彈丸ハ皆手製ノダムダム弾デ、其材料ト火薬トハ縣公署デ管理配給スルコトニナツテキル。モノ制度ガ彼等ノ宣撫工作上最モ緊密ナ役割ヲ務メテキル。猶又彼ラハ照準ノ狂ツタ



第22圖 呼瑪爾河中流渡河ノ状況、河中ノ黒點ハ馬（黒河憲兵隊檢閲済）



第23圖 呼瑪爾河支流ノ渡河河畔ノ樹木ハえぞやなぎ

（黒河憲兵隊檢閲済）

銃ヲ丹念ニ削ツタリ、鹿ノ角ナドヲ用ヒテ各自補正シテ居ル。實ニ銃ヲ持ツテ生レテ來タクヤウナ民族デアル。愈々オロチヨンノ居住地帶モ深ク這入ツタノデ、一日呼瑪爾河上流固チユク其固附近ニテントヲ張ツタ折、約1新程離レタ次ノ丘ノ上ニオロチヨンノテント村ヲ訪ネタ。村ト云ツテモ實ハ三軒デ、シカモ最近移動シテ來タバカリデアル。見ルト其ノ小屋掛けガ誠ニ面白い。先ダ2米餘ノ手頃ナ白樺ヲ10數本切り倒シ、其ノ先端ヨリ少シ下デ束ネ。



第24圖 オロチヨン族ノ一家（黒河憲兵隊檢閲済）

之ヲ傘形ニ擴ゲテ地上ニ押シ建テ、ソノ外側ヲ白樺ノ皮ヤ白布ヲ用ヒテ簡單ニ覆フノデアル。尤モ冬期ニハ其ノ上ニ更ニノロヤハンダハンナドノ毛皮ヲ載セルサウデアル。ソシティザ移動スルトナレバ、白樺ノ骨組ハソノ儘ニ放置シテ行ク。ソレ故奥地旅行中處々ニソノ殘骸ヲ認メタノデアル。

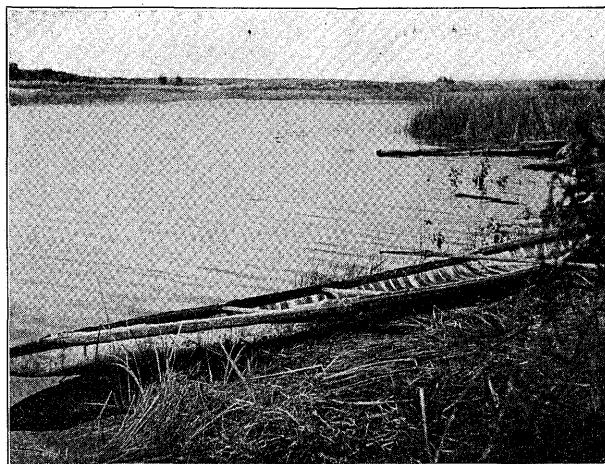
諸テ例ニヨツテ跋行式ノ挨拶デ敬意ヲ表シ、テント内ヲ覗カセテ貰フコトニシタ。内ニハ別ニ床ガアル譯モナク。タゞ程良イ加減ニノロノ毛皮ヲハギ合セテ敷イテアルニ過ギナイ。家財道具ナドモ至ツテ簡単デ、少シバカリノ白樺ノ皮デ出來タ食器ト毛皮製ノ衣類が數點アルダケデアル。ソレ故イザトナレバ何時デモ外ニ繫イデアル4頭ノ馬デ家族グルミ移動シテ行クコトガ出來ル。併シ彼等ト雖モ、之ガ全財産デハナイノデアツテ、日常使用セヌモノハ、山ノ洞窟ナドニ極祕裡ニ隠シテ置クノダサウデアル。テントノ裏手ニ廻ツテ見ルト彼第ガハンダハント呼シテ居ル動物ノ皮ガ張ヲ取リナガラ乾シテアル。ソノ大サハ縦2米、横1米餘ノ長方形ニ切ツテアツタ。話ニヨルト、牛程モアツテ、幾重ニモ分レタ角ガアリ、至ツテ嗅覺ノ銳イ敏捷ナ野生動物ダサウデ、之ヲ仕止メルコトハ大變困難ダサウデアル。實物ヲ見ナイノデ何トモ云ヘナイガ、馴鹿ニ近イ大型ノ鹿ノ類デアラシイ。猶彼等ニ樊メラレルマニ、此ノハンダハンノ乾肉ヲ味ツテ見タガ煮テモ良イ、其ノマニモ可成リ美味デアル。此ノ他獸類デハノロト稱スル小型ノ鹿ノ類ガ多ク、朝夕、近クノ森デ、恰モ小兒ガ涙ヲ含ンデ遠方カラ母親ヲ呼ビ求メルヤウナ鳴キ聲ヲ耳ニシタ。又猛獸トシテハ虎ハ殆ンド居ラヌサウデアルガ、熊ハマダマダ可成リ居ルラシイ、ソコデ熊狩ノ話デアルガ、流石ノ彼等モ1人デハ危險ナノデ、少クトモ倔強ノ若者2名ガ協力スルサウデアル。何シロ大陸ノ罷ハ身長2米餘モアルノデ1人が銃ヲ執リ、人が刀ヲ振ツテ組ミツク

トノコトデアル。1度
嚴冬ノ頃ニ來テ此ノ奮
戰振リヲ見タイモノ
デアル。併シコノ命賭
ケノ毛皮ガ僅々 15 圓
カラ 20 圓前後デ彼等
ノ手モトカラ離レテ行
クト云フ話デアル。猶
以上ノ他ニモ鹿、栗
鼠、貂、獺、白狐ナド
ガ獲レルサウデアル。
兎ニ角斯クシテ狩獵シ
タ毛皮ハ満人ニ賣捌カ
レ、ソレニヨツテ小麥
粉、鹽、大豆、豆油、ソノ他日用品ガ購入サレルノデアル。

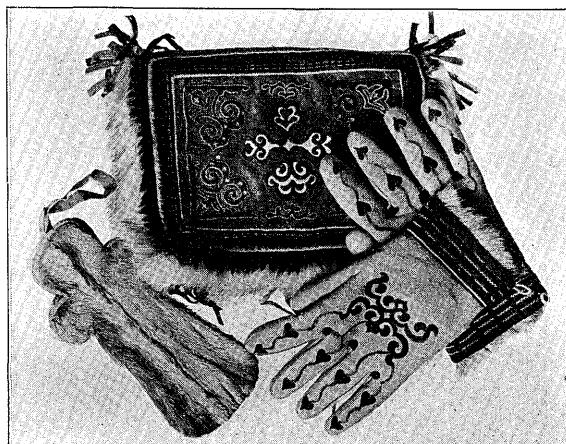
呼瑪爾河上流地方ハ前述ノ如ク非常ニ濕地ガ多ク、又小流ヤ池沼モ數知レズ散在シテヰ
ルノデ、オロチヨンハ白樺ノ皮ヲ剥イデ巧ニ之ヲ組ミ合セ輕イ小舟ヲ作ツテ使用シテキル。
コレナドハ上高地ノ大正池

ヘデモ、1,2 艘浮ベタイヤ
ウナ氣ガスル。又オロチヨ
ン語ノ内、面白サウナノヲ
2,3 捨ツテ見ルト娘サンガ
イロイロデ、細君ヲアタリ
カント呼ビ、馬ガモリデ、靴
ガオントデアル。持ツテ來
イヲアモリト言ヒ、持ツ
テ行ケヲアナリト言フ。
又植物ノ名デハまんしうか
んばヲタロート言ヒ、だふ
りからまつヲイラニタト呼

ビ、しべりやあかまつヲ
ジヤツクト言フ。兎ニ角吾々ハ之等ヲ組合セテスサマジイ會話ヲ取り交スノデアル。尤モ
満語サヘ話セレバ大體ノ場合オロチヨンノ男子トハドウヤラ話ガ通ズルヤウデアル。以上
ノ他ストーヴヲペチト呼ブ處カラ見レバ露語ノベーチカカラ來テ居ルコトハ明カデ、之カラ
見ルト露語モ可成リ混ツテ居ルラシイ。ソレハ其ノ管デ元來コノオロチヨンハ民族學的
ニハツシングース族ノ一派ト認メラレテ居リ、北樺太カラ、沿海州ヲ經テシベリアヲ横切リ、



第 25 圖 オロチヨン族ノ使用スル白樺皮製ノ輕舟（黒河憲兵隊檢閱済）



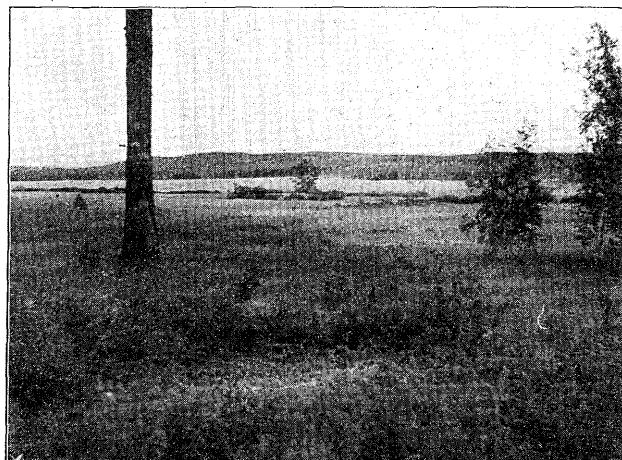
第 26 圖 オロチヨン族ノ革細工（黒河憲兵隊檢閱済）

遙エニセイ河畔ニ迄點々ト分布シテ居ル。ソシテ其ノ一部が偶々南下シテ満洲國內ニ這入ツタノガ吾々ノ見聞シタモノデアル。併シ乍ラスクシテ一旦満洲國領内ニ移住シタ現在デハ、彼ラモ亦四民協和ノ精神ノ下ニ立派ニ満洲國人デアツコノ點黒龍江ノ對岸、蘇聯側ノ兄弟トハ全ク異ツタ環境ノ下ニ置カレテキル。

啻ニソレバカリデハナク、彼等狩獵民族ハ満洲國々防線ノ一環トシテモ立派ニ勤キサヘ務メテキル。又吾々日本人トハ容貌モ酷似シテフリ、キチント膝ヲ折ツテ坐ル點ナド如何ニモ親シミ易イ。猶人ニヨツテハ我國ノ神話ニ出テ來ル「八俣ノ大蛇」ハオロチヨンヲ訛ツタノダト云フ說サヘモ出シテキル。尤モ吾々トシテハコンナ說ハ「成吉思汗ハ義經ナリ」トイフ程度ニシカ信ゼラレナイガ、兎ニ角日本人ニ近イ民族デアルコトダケハ間違ヒナイ。

以上デオロチヨン地帶ノ話モ大體濟シングノデアルガ、猶2,3氣付イタ點ヲオ話シテ見ルコトニスル。先づ第1ハ「黒龍江ノ水ハ何故黑色デアルカ」デアルガ、前ニモ述ベタヤウニ黒龍江ヲ丘ノ上カラデモ見下サウモノナラ、文字通り黒龍ニ見立テルコトガ出來ル。之ハ黃河ノ水ノ黃色ナノト誠ニ面白イ對照デアル。トコロデ斯ク黒ズンダ譯ハト云ヘバ、此ノ河ハ其ノ上流ニ於テハ、內蒙古ノ流ヲ汲ムコロンバイル地方ノアルカリ性土壤地帶ヲ貫流シテキルタメ、河水ハ其ノ當然ノ結果トシテアルカリ族、及ビアルカリ土族イオンヲ多量ニ含有シテキル譯デ河水ノ黒クナル筈ハナク、實際モ其ノ通リデアル。然ルニ一度其ノ中流上部ニ到レバ其ノ支流ノ殆ンド凡テガ東部シベリア的濕地ノ剩水ヲ集メテ來ルタメニ、Humus ノコロイドヲ豐富ニ注ギ込ムコトニナル。ソコデコノコロイドノ表面ニ嚮ニ述べタイオンガ吸着サレル。ツマリ安定ナ形トナツテ、一種ノサスペンジョンヲ形成スル。要

スルニ黒イ微粒子ガ水中ヲ浮游スルタメニ河水ハ黑色ヲ呈スルト考ヘレバヨイ。次ニコノ地方ニアル多數ノ支流ハ悉ク顯著ナ蛇行線ヲ描キ乍ラ濕地ノ中ヲ縫ツテ行ク。處ガ面白イコトニハ濕地中デモコノ河流ニ沿ツテノミ樹木ガ生エテキル。ツマリ生態學的ニ考ヘルト濕地ノ中ノ停滯水中ニ、樹木ノ根系ガアル場合



第27圖 蛇行線ヲ描ケ小川ヲ含ム濕地（黒河憲兵隊檢閲済）
中ニアルノトデハ大オニ趣フ異ニスル也下ミナル。其ノ譯ハ前者ハ酸素ノ含有量乏シク、根系ヲ呼吸ヲ困難ナシメルニ反シテ後者ハ殆ンド其ノ虞ガナイカラデアル。ソコデ一面

ノ湿地ノ中デモえぞやなぎ、ほそばきぬやなぎガ衝立テノ如クニ生エ列ンデキル處ハ河デアルト思ヘバヨイ。猶以上 2 種ノ外ニテうせんおのへやなぎ、てうせんみねやなぎ、てうせんきつねやなぎ、ぬまきぬやなぎ、あかめばつこやなぎ、まるばばつこやなぎ等、*Salix* 屬ガ特ニ多イコトハ同地域ノ環境ヲ暗示シテキルト云ヘル。更ニ又同地方ノ旅行ニ於テ倒木ガ特ニ多イコトヲ注目シタガ、土壤ガ比較的淺イコトヽ、水湿地ガ多イコトノ外ニ、地下 1 米乃至 2 米下ハ盛夏ノ頃ト雖モ結氷シテ永久凍土層ヲナシテキルタメニ根系ガ淺ク、然モ張リガ充分デナイコトニ基因スルト思ハレル。

最後ニ前後 3 週間ニ亘ツタ同方面ノ調査旅行中如何ナル樹木ガ一番多量デアツタカト云ヘバ、先ヅまんしゅしらかんばヲ推サネバナラナイ。次ハだふりあからまつデ、量ニ於テハ前二者ニ較ブ可クモナイガ第 3 位ハしべりああかまつ及ビ其ノ變種ガ占メルモノト思フ。其ノ他柳以外ノ闊葉喬木デハ



第 28 圖 倒木ノ淺イ根系（黒河盤兵隊検閲済）

えやがはかんば、ごおのおれ、もんごりなら、てうせんやまならし、及ビ *Populus sieboldii* 等デ、大型灌木トシテハ、まんしゅはんのき、しゃべりあはんのき等ヲ見、小灌木トシテハやまはぎ、ほそばいそつじ、おへうはしばみ、えぞのむらさきつゝじ、えぞほざきなゝかまど、ほざきしもつけ、くろまめのき、やまはまなし、しらたまみづき、あかさんざ、うらじろえぞのうはみづざくら等デアラウ。是等ノ生育状態ニ就イテハ又他日ヲ期スルコトニシテ、一先ヅ沿黒龍地方ノ調査旅行談ヲ打チ切ルコトニスル。